

みんなの ひろば

ダツタンそばの新品種「満天きらり」を生産
農業生産法人 株式会社神門 社長
田原 昭彦さん（新町）
町の産業活性化を目指して



厳しい条件下でも栽培可能で、健康食品としても注目されているダツタンそば。
新品種「満天きらり」の栽培が可能になった昨年5月、農業生産法人株式会社神門が民間有志により設立された。神門は農産物の生産・加工を取り扱うため、町内の耕作放棄地に目を付け、満天きらりの栽培にさっそく着手。
社長の田原昭彦さんは「新しいダツタンそばは食味が良く、生活習慣病予防に効果が

高いので、雄武の特産品として盛り上げていきたいです」と意気込みを話す。
昨年の11月27日火、満天きらりの品評会が、中山間雄武活性化施設で実施された。雄武手打ち蕎麦の会の皆さんが満天きらりのそば粉を使って打ったそばと、株式会社オダ水産で開発中の鮭節をダシに使っためんつゆが町内関係者に披露された。
田原社長は「新品種の満天きらりは、食品加工後のルチ



ン残存率が従来の数百倍と非常に高く、ダツタンそば特有の苦みもかなり弱いので、カステラなどのお菓子の材料として使えば、健康食品として期待できます」と説明。出席者からも「今までのダツタンそばよりも食べやすくて、美味いですね」と好評だった。
今後の取組みについて田原社長は「満天きらりの栽培拡大と、新しい商品の開発に努めていきます。生産だけでなく、製造・販売も町内で行うことで、雇用の拡大につながっていきたくですね。満天きらりを健康食品としてアピールし、地元で定着させ、大手食品メーカーとの提携を図っていただければ」と期待を込めて話してくれました。

クローズアップ
まちのひと

毎日の業務に気概を持って

あきひろ
しかの 鹿野 晃弘 さん
特別養護老人ホーム雄愛園



平成24年の4月から特別養護老人ホーム「雄愛園」のデイサービスセンターに勤務している鹿野晃弘さん（23歳）。南富良野町出身。雄武町の印象を「きれいな町だ」と思います。内陸出身なので海の町は新鮮ですね」と話してくれた。
名寄市立大学で人生の転機となる出会いがあった。「実習で老人ホームを訪問した時、指導いただいた職員の方に大変親切にしていたので、その方の仕事ぶりや人柄に影響を受け、私も同じ仕事に就きたいと考えました」と振り返る。
「主な業務は、在宅の高齢者の方々に対して、食事や

入浴といった日常生活の補助をすることです。仕事は大変なこともありませんが、いつもより早くできると嬉しいですし、利用者の方々とお話をするのも楽しいですね」と笑顔を見せる。
今後の目標について「社会福祉士・介護福祉士の国家試験に向けて勉強を頑張っています。仕事に慣れたとは思わず、毎日の業務に一生懸命、気概を持って取り組み、立派な社会人になりたいです」と力強く話してくれました。
◆性格
おおらかで前向きです。
◆好きな女性のタイプ
話していて楽しい人

小さな美術館 豊丘小学校



→「牛のえさやり」



高橋一歌さん(2年)



→「トラクターがきたぞー」



千田凌生くん(1年)



→「たてい」



大和田留理香さん(3年)



→「さけりよつ」



佐々木鋭輝くん(3年)

わんぱくキッズ

おおきくなったら
～若草保育所～



かわばたはるとくん



かたがわあまきちゃん



いしばしせいじくん